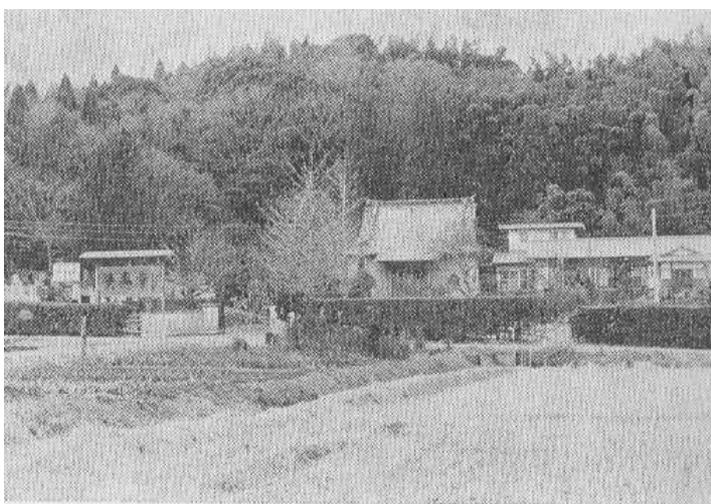


## 勝胤

ここでまた、話をもとへもどすことにしよう。孝胤のなきあと、勝胤は孝胤の晩年にあたる永正元年（一五〇四）九月に、山内上杉顕定と扇谷上杉朝良とが武蔵立河原に於いて戦ったとき兵を率いて顕定軍に加勢している。大永元年（一五二一）古河公方高基の子足利晴氏が北條氏綱の女を娶り、室としたのを契機に、千葉市も後北條氏に通じ、好みを深くしたという。のち、

武田氏の奉ずる小弓公方足利義明の討伐を北条氏綱にすすめたが、かえって氏綱から「方今隣国いづれも戦闘の患あり。大を忘れて小を争ふ事は将の好む所に非ず須らく時を待ち給え」と説得され、しばらくの間、義明と和を講じたと伝えられている。晩年、勝胤は曹洞禅に帰依し、天文元年（一五三二）春二月に本佐倉城下の浜宿に一寺を建立した。常歳山勝胤寺がこれにあたる。その二か月余りののちの五月二十一日に六三歳で亡くなっている。



4—14図 勝胤寺（佐倉市大佐倉）